

第4回英語による高校生科学研究発表会

12月8日（土）に、駿優教育会館において、第4回英語による科学研究発表会を開催しました。この発表会は、全国のSSH指定校に呼びかけて、各校で取り組んでいる科学研究の成果を英語でまとめ発表することにより、研究内容の深化を図り専門性を育成するとともに、英語によるプレゼンテーションや質疑応答を通して英語力や国際性を育成することを目指して、毎年12月上旬に行っています。

今年は県外から、札幌日大高校（北海道）、立命館慶祥高校（北海道）、県立福島高校（福島）、都立戸山高校（東京）の4校、県内から日立一、水戸一、水戸二、清真学園、竜ヶ崎一、並木中等、茗溪学園、緑岡の8校、合計12校が参加しました。

この発表会は、例年理数科2年生による運営で行われており、今年も司会、受付、誘導、パソコン操作、記録などの役割を生徒たちが分担し、滞りなく発表会を進行しました。

午前中は、同会館8Fの大ホールで口頭発表を行い、8校から12件の発表がありました。「コイルを使った人力発電の効率化」や「紫外線指数と自然的要因～日焼け、ダメ、絶対。～」など、タイトルにも工夫を凝らし、興味をひかれる発表がたくさんありました。英語による発表ということで、多くの生徒はやや緊張していた様子でしたが、これまでの研究の成果を一生懸命に、そして堂々と発表していました。午後は、同会館5Fのイベントスペースに会場を移してポスター発表を行い、全12校から25件の発表がありました。高校生同士では日本語による質問や回答も多少はありましたが、大学の先生方やA L Tからの質問は当然英語で行われ、発表者はそれに対して四苦八苦しながらも英語で一生懸命に答えていました。

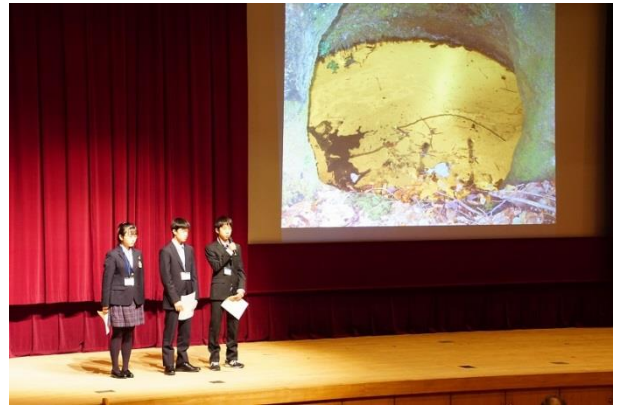
ポスター発表後の閉会行事では、茨城大学理学部長の田内広教授から、「英語で発表をすることは高校生にとっては大変貴重な経験です。大学生でもあまり経験することはありません。発表が終わりほっとしたという気持ちもあるでしょうが、この貴重な経験を活かして、ますます専門性と国際性を磨いていってください。」とのご講評をいただきました。また、その後の交流の時

間には、各校の代表者に英語で感想を述べてもらい、高校生同士の交流を図ることができました。

どの発表者も、発表後には安心感とともに充実感に満ちた表情を浮かべ、この発表会で良い刺激を受け、今後ますます科学的専門性とともにコミュニケーション力を向上させようという気持ちを感じました。



開会式



口頭発表



ポスター発表



田内先生からの講評



各校代表者によるスピーチ



閉式の言葉